

都道府県主催としては初の宝くじ

「福井県復興宝くじ」（資料8、複製資料で全文閲覧可能）は、都道府県主催としては全国初の宝くじの発行計画に関する簿冊です。

宝くじの収益金は、復興資金として県営住宅および福井市と敦賀市の戦災者・引揚者用市営住宅の建設費用の一部にする計画でした。「ふくふく籤」の愛称で親しまれたこの宝くじは、当時の新聞にも取り上げられています。

「復興宝くじ」はその後、1948年（昭和23）の福井震災後にも実施されました。



1946年12月25日『福井新聞』



1947年1月1日『福井新聞』

「ふくふく籤」の発行を伝える新聞記事（いずれも当館所蔵マイクロフィルムより）



戦後（1946年）に発行された宝くじ（左）と福井震災後（1948年）に発行された宝くじ（右）
（いずれも福井県立歴史博物館蔵）